

教育推進部教育指導課

平成29年度学校評価の報告について

○学校評価は、「学校運営の改善を目指し、教育水準の向上を図る」ことを目的とし、各学校園が、自校(園)の教育活動その他の学校運営の状況について、以下のとおり評価を行い、その結果に基づき必要な措置を講ずることが、平成19年改正された学校教育法、同法施行規則に示されている。

- ①教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること
- ②学校の自己評価について保護者などの学校の関係者による評価（「学校関係者評価」）を行うとともにその結果を公表するよう努めること
- ③自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者に報告すること

○文京区教育委員会では、法改正に基づき平成20年度より学校評価を実施している。平成21年4月に「文京区立学校関係者評価委員会設置要綱」を定め、「学校関係者評価委員会」を組織して、学校関係者評価を実施することとした。平成22年度には、各学校からの学校評価報告とともに、区全体の状況を把握するための参考として、学校関係者評価に区共通項目を策定した。

○ここに、平成29年度学校評価の報告における区立学校(園)の重点目標及び目標ごとの学校関係者評価とともに、学校関係者評価区共通項目の集計結果を示す。

○教育委員会では、各学校からの学校評価報告を受け、学校支援の具体的な手立てを講じるとともに、教育施策の実行状況や進展状況を把握する資料とする。

平成29年度学校関係者評価共通項目（集計結果）

(園)

幼稚園		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	9	1	0	0	3.90	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	10	0	0	0	4.00	A

(校)

小学校		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	20	0	0	0	4.00	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	20	0	0	0	4.00	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	20	0	0	0	4.00	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	19	1	0	0	3.95	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	20	0	0	0	4.00	A

(校)

中学校		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	9	1	0	0	3.90	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	4.00	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	9	1	0	0	3.90	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	7	3	0	0	3.70	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	10	0	0	0	4.00	A

※各関係者評価委員が4段階で評価した学校(園)の平均値を下記の基準をもとにABCDの4段階で評定したものの。
 (A: 4~3.4以上、B: 3.4未満~2.6以上、C: 2.6未満~1.8以上、D: 1.8未満)

平成29年度文京区立幼稚園・小中学校 学校評価 重点目標

※数字は、重点目標に設定した学校園数（のべ数）

幼稚園（10園）		小学校（20校）		中学校（10校）	
家庭・地域との連携	7	学力向上	20	学力向上	10
心と体の育成	7	豊かな心・人間性・感性の育成	18	豊かな心・人間性の育成	9
安全・安心な園づくり	7	健康・体力の保持増進	16	特色ある学校づくり	7
信頼される園づくり	6	家庭・地域との連携	9	体力向上	7
一人一人のよさを引き出す教育	6	特色ある教育の実践	8	信頼される学校づくり	6
教職員連携（チーム力向上）	5	学校（組織）力の向上	5	生活指導の充実(健全育成)	5

平成29年度 保護者アンケート(区共通項目)集計結果

質問項目	幼稚園					わからな い・無回 答(%)
	とて もあ ては ま る (%)	ま あ あ て は ま る (%)	あ ま り あ て は ま ら な い (%)	ま つ た く あ て は ま ら な い (%)	わ か ら な い ・ 無 回 答 (%)	
1 本校(園)の教育活動に満足している。	69.6	28.4	1.0	0.0	1.0	
2 本校(園)の子どもたちは、学校が楽しいと感じている。	80.2	19.3	0.2	0.0	0.3	
3 本校(園)では、一人一人が大切にされ、子どもの人権に配慮した教育が行われている。	67.9	28.5	1.4	0.0	2.2	
4 本校(園)は、特色ある学校(園)づくりに積極的に取り組んでいる。	71.4	25.8	1.0	0.1	1.7	
5 本校の授業は、子どもにとって分かりやすい内容である。【小・中学校】	68.1	28.5	1.5	0.2	1.7	
6 本校は、学校生活で起きた問題(いじめ等)に対して、素早く適切に対応している。	60.4	28.9	3.3	0.9	6.5	
7 本校(園)では、子どもの安全管理や事故防止に努めている。	65.3	30.4	2.8	0.4	1.1	
8 本校(園)は、保護者や地域に対し、積極的に情報を発信している。	66.0	31.2	1.7	0.2	0.9	
9 本校(園)は、保護者の意見・要望を受け止めながら、協力して教育を進めようとしている。	64.4	30.8	2.7	0.2	1.9	
10 来校時や電話での本校(園)の教職員の学校職員のあいさつや対応は、適切である。	83.1	16.4	0.5	0.0	0.0	
11 現在の本園に総合的に満足している。(幼稚園のみ)	72.9	25.5	1.2	0.0	0.4	

小学校					わからな い・無回 答(%)
とて もあ て は ま る (%)	ま あ あ て は ま る (%)	あ ま り あ て は ま ら な い (%)	ま つ た く あ て は ま ら な い (%)	わ か ら な い ・ 無 回 答 (%)	
46.8	47.6	3.4	0.8	1.4	
52.5	40.1	4.9	1.0	1.5	
42.7	46.7	4.8	0.8	5.0	
50.0	40.0	5.5	0.6	3.9	
44.7	48.1	3.1	0.5	3.6	
33.3	38.9	5.9	1.4	20.5	
47.8	44.7	2.9	0.8	3.8	
46.8	45.0	4.8	0.8	2.6	
43.4	44.0	4.9	0.9	6.8	
65.8	29.1	3.3	0.5	1.3	

中学校					わからな い・無回 答(%)
とて もあ て は ま る (%)	ま あ あ て は ま る (%)	あ ま り あ て は ま ら な い (%)	ま つ た く あ て は ま ら な い (%)	わ か ら な い ・ 無 回 答 (%)	
30.6	58.3	7.3	1.4	2.4	
36.4	52.9	5.4	0.8	4.5	
26.8	55.5	8.6	1.4	7.7	
26.0	50.7	13.5	1.1	8.7	
18.1	55.5	11.8	2.0	12.6	
22.3	39.4	8.1	2.7	27.5	
32.5	51.0	5.0	0.9	10.6	
32.9	50.7	9.5	1.0	5.9	
27.7	48.7	9.4	3.0	11.2	
54.3	40.3	2.9	0.4	2.1	

※ 数値は、各学校の平均値

幼稚園 重点目標ごとの関係者評価【肯定的な意見】抜粋

<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の様子や様々な行事から、子供たちが成長し大きくなった姿がたくさん見られ、うれしく思う。 ・保護者アンケートでは、教育活動に対して保護者の言葉が温かく、幼稚園の教育を評価していることがうれしい。今後も保護者が望んでいる幼児教育を進めてほしい。 ・預かり保育を利用する保護者が増えているが、保護者が園を信頼し、できることを協力している。 ・保護者の価値観や子育てに対する姿勢などが様々で、大変なことが多いだろうが、園が熱意をもって真摯に対応していると感じる。 ・地域の中でいろいろな機関（盲学校、支援学校など）のあることが、当たり前となってきているので交流しやすい。小石川後樂園への遠足、他校種や地域の人との交流などが充実している。 ・子ども達の育ちを支える力としてお父さんの会の存在も大きいのではないか。今年度は（お父さんの会への入会は希望制だが）入会希望者が多く、子ども達がとても楽しませてもらった。
<p>教員の専門性・指導力の向上・指</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研究の話聞き、発達に沿って「たくましさ」の要素である「諦めない」「気持ちを切り替える」などができるようになってきていることが分かった。 ・関係者評価、保護者評価はともに高い評価であった。自己評価については、教員の課題意識の表れととらえることも必要。よい教育活動を行っていることが、子供の姿から分かる。また、地域・保護者とのコミュニケーションもしっかりと取れている。引き続き次年度もしっかりと教育活動を推進してほしい。
<p>安全・安心な園づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の健康面を含めての安心安全な取り組みを、教育と預かり保育で取り組んでいることが分かる。 ・避難訓練、防犯訓練もしっかり行い、評価されている。今後も頑張してほしい。 ・近隣小学校の工事によって、小中学校との施設交流の機会が増えた。回を重ね、幼稚園・中学校双方が互いに安心して安全に自然に行うことができるようになってきた。 ・「安心して子どもを預けられている」と感じている保護者が大多数であることが、各設問や感想・意見から見てとれる。それが一番大切なことであると思う。 ・避難訓練、防犯訓練もしっかり行い、評価されている。今後も頑張してほしい。
<p>心と体の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員・保護者・地域が協力し、気持ちを込めて周年を丁寧につくりあげ、手作りの装飾や記念品に温かみを感じた。幼児の心の育成にもつながった。 ・こども劇場でも、自分たちでタイミングを計りながら、責任感をもって動いている姿が素晴らしい。 ・幼児のコミュニケーション能力を高める取り組みとして、子どもの声をよく聞いて、他者に伝えるための援助をしていることが分かる。大切な援助であり継続してほしい。 ・季節の花が生けてある、子どもたちの作品が丁寧に飾られているなど、子どもたちの心を豊かにする環境の工夫がされている。 ・子どもたちが体を様々に動かせるように、先生たちの活動や場の工夫がたくさんあることが分かった。環境の工夫を継続してほしい。 ・サッカー教室など地域力を活用しての取り組みがある。また、そのつながりをオリパラ教育に生かし、子どもたちに多様な体験ができる工夫がある。運動に対する意識の向上にも活かされている。 ・保育園と幼稚園の交流を通し、同年齢の中でお互いがいろいろな感情を体験していることや育ち合えるよさがある。
<p>共に生きる力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が子育てを楽しみ、夫婦で協力し合いながら子育てをしている様子がよいと思う。幼稚園や地域の施設が子育て支援のセンター的な役割を果たしている。 ・子育てや育児の悩み、不安の相談相手として幼稚園の教員と回答した人の割合が昨年度より若干増えているのはうれしい。
<p>遊びの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが喜んで登園し、いつも笑顔いっぱい遊んでいる。各学級の様子を報告を聞いていても、子どもたちのために先生方が一生懸命に環境を整え、適切な援助をしているのだと思う。

幼稚園 重点目標ごとの学校関係者評価【改善に向けた意見】抜粋

<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の預かり保育が昨年から始まり、就労していない保護者と預かり保育登録保護者と登降園時間が違うことから、コミュニケーションがとりにくくなり誤解が生じることにもなる。PTA活動を毎年改善してもまだまだ参加しにくい登録預かり利用保護者とそうでない保護者との関係づくりが課題である。 児童館で子どもたちの様子を見てみると、自分の感情を言葉で表現する経験が少ないように感じている。たくましい幼児を育むために、感情表現を大切にして言葉で伝えらるようになっていることを今後も継続してほしい。 父親のみの参加の行事は、父親と限定することのよさもあるので、社会の変容と趣旨を兼ね合わせて検討していくとよいと思う。 近頃、挨拶のできない大人が増えている。たとえ顔見知りではなくても、地域の中であれば、挨拶をしてほしい。そういうことから地域のつながりを強くしていける。 保護者同士の人間関係で悩むという回答が意外に多く、母親同士のコミュニケーションづくりの難しさを感じている。就労の保護者も年々増えてきており顔を合わせない保護者も出てきてしまっている。役員等を決める時にも、人任せにしてしまいがちである。
<p>性・教員の専門 向上 指導力の</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取り組みしっかりとつないでいくことが大切である。幼稚園教育要領の変化などにもしっかりと対応できるようにしていく。 教職員の働きすぎに関しては、専門職であるが故の裁量部分が多く、小中学校でも難しい課題である。
<p>安全・安心な園づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安心安全な取組に力を注いでいることが分かる。しかし、幼児は大人が気を付けていても一瞬でケガをする時がある。安心安全な取組とともに、たくましさを育み、保護者にもその重要性を啓発していく視点に加えてほしい。 保護者の自由意見の中で、発表会の日の休憩時に窓を開けたので寒かったという意見があったが換気は大切である。ホール等室内の行事の際は、換気をしっかり行うとよい。 何か事が起きると、「そこに先生はいたのですか？」などと厳しい意見が出ることが多い。悪者をつくらなければすまない親の姿が気になる。 安全面に配慮し、極力廊下に物を置かない工夫が必要である。 預かり保育の昨年度の課題の改善も見られる。チーム力をさらに発揮してほしい。 豊かな自然を大いに活用したり、自分で自分の身を守るができるようにしたりしてほしい。自分で良し悪しを判断して行動できるようになってほしい。安全面については、とても重視しているので、今後も継続してもらいたい。
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子育てを「早く、早く」と先取りする傾向が強い。今の生活を充実して過ごすことを伝えていくことが大切である。 保護者の前では“よい子”にしているが園で発散している幼児もいるようだ。幼児が家庭で伸び伸びとできないことが理由かもしれない。 第三者的に見ていると、先生方の姿(教育的配慮をしてくれている姿)は本当によくやっただけだと思えるし、保護者の立場も分かる。悩んでいる親がたくさんいる。互いの歩み寄りをどう図っていくかが課題である。
<p>遊びの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の公園などは小さな保育園の子どもたちが大勢来ているので、場所と時間を考えて利用することが必要になっている。 ラグビー体験は、小さい頃に丸いボールとはまた違ったラグビーボールに触れることが子どもたちにどう影響していくのか興味深い。オリパラ教育が遊びにも取り入れられていることはとてもよかったと思う。

小学校 重点項目ごとの学校関係者評価【肯定的な意見】抜粋

学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」をめざす新学習指導要領移行期を見据え、「思考力・判断力・表現力」を育てる問題解決型の学習を大切にしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「分かり易い授業を行い、子供たちは生き生きと学習に取り組んでいるか。」の項目では、93.2%が肯定的な評価をしている。児童の98.7%が「授業はよくわかる」、96.7%が「授業は楽しい」と答えている。各種学力調査の結果も年々伸びてきている。授業改善推進プランに沿い、授業研究を行ったり、教員が「習得・活用・探究」を意識して毎時間のめあてを明確にもち、授業に臨んできた成果である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業が分かりやすい」と答える児童が93%という点は特筆すべきである。新学習指導要領で掲げられた主体的・対話的で深い学びは、すでに数年間にわたる授業研究で教職員間での追究と共通理解が図られている。（授業検討会も活発である）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業については、教員も児童も既に「使いこなす」領域に達しつつあり、効率と効果がバランスよく両立されている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に向けた学校の考え方や取組がよくわかった。学校は、教職員一丸となって教育活動にあたっている。7時間授業の実施等、大変な面もあると思うが、今後ぜひ充実した取組がなされることを期待したい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、外国語活動の研究に取り組んだことは高く評価できる。担任がT1として頑張っていることで、児童の学習の幅やコミュニケーションが効果的に広がっていることを感じる。今後もALTやAC（エリアコーディネーター）の活用も含めて、外国語教育に取り組んでほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導では、電子黒板などのICT機器の有効な利用がされており、児童の興味を逸らさない授業が行われている。ICT機器のトラブル解決法など教員の取組みに対する意識も感じられる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表の公開授業にも見て取れるように、インクルーシブ教育システムが構築されてきていることが分かる。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底をはかるべく時間を設定し、ベーシックドリルを活用しながら学習を進めていた。特に、診断シートを活用して授業で分かりにくいところの掘り下げを行うとともに、応用・練習シートでの反復学習により確認をしていた点は注目に値する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域との協力がとても心強い地域で、避難所訓練等を含めた地域との関係が大変良好で、教職員の参加が多く、今後もこの関係を続けてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー、昔あそびなど外部講師を招いて普段とは趣向の変わった授業が定着しており、地域と学校の連携が図られ、保護者を始めとするボランティア参加も安定している。保護者の出席が容易な保護者会開催の日時などで試行錯誤する努力が見られる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・土日の「子どもひろば」の利用が増え、行儀よく遊んでいる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい資料や道具を手に入れ、地域の方々の情報を得て挑戦される姿勢は素晴らしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りをはじめとする地域の行事に児童が積極的に参加し、地域の人々と交流し、そこから学ぶことができた。下町まつり、冬の火の用心、フェスティバル、清掃など、多くの機会学んで学んでいる。また、今年度は、周年を機に、町、学校の歴史を学ぶとともに、地域の方から戦中・戦後の様子についても学んでいることはよい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動に教員も積極的に参加して「こどもフェスティバル」などの行事は児童も楽しみにしている。また地域懇談会への出席、学校だよりの各町会へ配布など地域への情報発信も適切に行われている。
豊かな心・人間性・感性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント、町会行事、健全育成会の行事にも児童がたくさん参加している。今後とも地域の力と連携を願いたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめアンケート」等を基に「いじめ」等にも迅速に対応している。「なかよし班」活動等の異学年交流や特別支援学級との「交流及び共同学習」が日常的になされ、温かい人間関係が育まれている。インクルーシブ教育の充実に努めている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重教育推進校としての教育活動に留意し、「学校はみんなを大切に考えている」の評価向上を着実に実現している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校や特別支援学級との交流、外部講師による授業などの体験授業を通し道徳教育の推進を図り、他者を思いやる心、あきらめない心等、生きる力の育成教育を進めた結果、学校アンケートの高評価につながったと思われる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶ができる児童を褒めて伸ばすという効果は絶大だと感じる。登校の際の挨拶応援隊に元気よく挨拶をしている姿が印象的だった。日々の学校生活を通して常に児童に寄り添い指導している様子が伺える。
<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間には決して広くはない校庭で、高学年が低学年を気遣い、異学年や教職員が混ざりあって体を動かす時間は、重点目標一の項目である心温かな人間関係の育成の取り組みとも密接に関わっている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのクリーン作戦を行ったり、伝統文化を体験したり、パラリンピック選手の話聞く機会等、様々な場面を用意し、子どもの心をたがやす教育が行われている。 	

特色ある教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメント、プログラミング、新しい道徳、アクティブラーニングなどの教育課題の説明がすべての先生が語ろうと努力しているところが評価できる。 「人の話が聞ける児童の育成」「自ら進んで本を読む児童の育成」に取り組んでいる。どちらも大切なことなので、ぜひ推進して欲しい。 日本古来の伝統的和楽器の音色の美しさと演奏体験、伝統芸能の鑑賞と体験ができた。和楽器演奏とは違う、伝統的な日本舞踊の奥深さ・表現の美しさを感じることができた。
体力の向上 進・健康の増	<ul style="list-style-type: none"> 運動朝会の実施、縄跳び・ランニングタイム等の継続が、体力の向上に繋がる。 計画的、継続的に行わなければ体力向上には繋がらない。継続的に縄跳びや持久走を行うことで調整力・体力の向上に繋がった。1年間の取り組みの成果について、次年度の体力テストの結果を基に今後も検証していく。 長年の懸案であった体力向上に関する取組として、今年度は学校支援地域本部のボランティアの支援も受けつつ「朝遊び」を導入した。全校児童が体を動かす物的環境には必ずしも恵まれていない中で、工夫して児童が体を積極的に動かす時間、方法を創出していることは高く評価できる。
生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 実際にいじめにつながりかねない問題はゼロではないだろうが、担任だけではなく全教職員が一人一人の児童の状態を把握し異変にいち早く対応できる小規模校の特色、またスクールカウンセラーの周知や児童との交流が未然防止、早期発見に成果をもたらしている。保護者の関心の高い項目であることから、さらなる向上が望まれる。 「規律ある生活」「挨拶や言葉遣い」「生命尊重やいじめ」に関する指導への肯定的な評価は、昨年度に比べてそれぞれ16、18、19ポイントと高い割合で増加した。保護者の自由記述にも、「たのしく学校に通うことができ、感謝している」「今年度に入って全体的に落ち着いている」との肯定的な意見がみられた。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域に見守られ地域の協力があつた良さがある。挨拶や礼儀など、学校で指導していることは大切なので、伝えていただければ、地域でも連携して育てたい。(商店街での掲示より)一行詩や俳句がすばらしい。掲示して頂き親子で見に行った。 学校支援地域本部がPTAと協力して、児童の情操教育のために親子〇〇講座を開催している。校外での活動に対しての安全補助員への協力もあった。 「本校は、保護者や地域の方々が気軽に来校できる雰囲気づくりに努めていると思いますか。」では、95.5%の方が肯定的な評価をし、概ね円滑に進めることができている。ミュージックバンドが、祭りやチャリティコンサートに出かけ演奏活動を行っているのはとてもよい。 学校内外への情報発信機能強化に重点を置き、学校運営に関する情報発信を学校運営協議会の情報も含めて保護者や地域に積極的に行うことや地域との連携の強化等、開かれた学校づくりに向け昨年度以上に成果を挙げている点も高く評価できる。
安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 校内環境としての安全点検の徹底、防災等子どもの危機の未然防止、早期対応といった「安心・安全第一」という方針にもとづく校長のリーダーシップが着実に発揮されている。 「学校は、児童の安全管理や事故防止に努めている」の問いに、約86%の保護者が「あてはまる」と回答している。毎月の安全指導日における先生方の指導はもとより、地域の方々の協力による登校指導や日常的な目配りが、児童の安全を支える大きな力となっている。 スクールガードや町会等の地域との関係構築及び連携により、校外における子供達の見守りや指導において補完的な役割が発揮されており、トラブル発生等の牽制・未然防止に寄与しているものと評価できる。

小学校 重点目標ごとの学校関係者評価【改善に向けた意見】抜粋

学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの社会を考えると、「自ら考え学ぶ子」を育てることは大きな課題である。さまざまな教科で、「主体的・対話で深い学び」をめざし、さらに頑張ってもらいたい。 ・タブレットの一人1台導入に伴い、これまでの実践を生かし、タブレット等をより一層意図的・計画的に活用できるようにしていくことが今後の課題である。 ・「進んで学ぶ子」はA・B合わせて8割越えでしたが、学年によるばらつきがみられたとの事だったので、主体的対話的に学ぶ環境を整え、子ども達の意欲を引き出し、児童の進度や理解にあった授業の工夫が望まれる。 ・「特別の教科 道徳」の評価が今年度よりあゆみに記載されるにあたり心配をしていたが、研究発表会等での説明を聞いて、人格を評価するものではないことが分かり安心していている反面、道徳の内容は、学校教育だけでは無理で、自然の中や日常生活、社会の中で育むことが必要である。 ・知識については申し分ないが、自分の言葉や表現で伝える力がやや十分ではない傾向が見られる。今後、児童数の増加にともなう個別指導の負担増、少人数授業の教室の確保が懸念されるが、高い水準を保って欲しい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の二極化傾向は続いている。本校の大きな課題である。学習につまずきのある児童について個に応じた工夫（取り出し指導や教材の工夫など）が必要であることはもちろんだが、習熟の早い児童に対しても、深い内容の課題を用意する手だてが必要である。 ・中学校や幼稚園との共有の必要性についての意見が昨年度も今年度も出ていた。幼保小中を通じた安定した学習環境の創出のためにも、スタンダードの共有の実現化を図ってほしい。 ・234人中、3人の児童が「授業があまりわからない」と答えている。勉強が分からない、意味が分からないと言っているようだが、丁寧な対応を心掛け、粘り強く指導にあたってほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の進め方について、せっかくの機会なので、配布されたプリントを説明するだけでなく、学級の状況や子どもたちの様子などをぜひ担任の先生に語っていただき、課題があれば保護者としても協力したい。 ・宿泊の「ゆきあそび」では、子供たちの様子を見て注意すべきことは厳しく叱った。今後も地域の大人が、昔のようにうるさいおじさんとなって地域の子どもたちを育てることが必要である。 ・地域の小学校から地域の中学校への進学が少しでも増えるよう、地域の間も努力していきたいと思う。それには多くの課題があるだろうが、基本的には充実した魅力ある小中学校の実現が必要である。 ・PTA活動に教員も積極的に参加してフェスティバルなどの行事は児童も楽しみにしている。また地域懇談会への出席、学校だよりの各町会へ配布など地域への情報発信も適切に行われている。今後も「学校」・「保護者」・「地域」で協力して児童の教育環境の益々の充実を望む。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は児童の悩みや相談を受けとめている」「いじめ問題等に対して適切に対応している」との問いに、「わからない」と回答した保護者が一定数みられた。「もっと学校の取り組みを保護者や子どもたちにアピールしてもよいのでは」との建設的な意見が出された。 ・ゲームだけでなく、携帯やパソコンでのユーチューブ等の動画サイトの視聴が学年を問わず有ることから、睡眠不足からイライラしたり、生活リズムを崩す要因にもなっていて、家庭とも連携して欲しいと思う。 ・基本的な生活習慣を身に付けさせるのは、学校・家庭の両面の問題である。学校が保護者への声掛けを多くする必要がある。学校内と外とは、児童の様子がかなり違い、今年度は学校外の問題がほとんどであった。 ・児童自身が、自分で言った言葉に相手が傷ついていることを気付かない場面がある。自分が相手から言われると気づくので、まわりの大人の声かけも必要である。 ・オリンピック・パラリンピック教育推進の中で、一過性のイベントに終わらせず、例えば徳育を意識して、人権教育や生命尊重に関わる教育の具体的な手立ての工夫がなされることを期待している。 ・学校でもいけないことはしっかりと教えてほしい。世間が厳しくなり、体罰防止は承知しているが、見逃さないでほしい。 ・クリーン作戦の回数を増やしたり、キャリア教育や伝統文化を体験したり、パラリンピック選手の話聞く機会をもったり等、様々な場面を用意し、今後も子どもの心を耕す教育が行う必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には宝である「地域の教育力」がまだまだ眠っている。その教育力の発掘をさらに深め、児童との交流の中で学ぶ機会を作ってほしい。 ・さらなる学校のブランドの構築に向け「かかわり」のある学校の実現に向け、ESDに関する職員研修を確実に行ってほしい。その際、これまでの実践の省察をふまえ、スクラップ&ビルドの視点にも留意し、無理・無駄のない取り組みを策定していくことが求められる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には宝である「地域の教育力」がまだまだ眠っている。その教育力の発掘をさらに深め、児童との交流の中で学ぶ機会を作ってほしい。 ・さらなる学校のブランドの構築に向け「かかわり」のある学校の実現に向け、ESDに関する職員研修を確実に行ってほしい。その際、これまでの実践の省察をふまえ、スクラップ&ビルドの視点にも留意し、無理・無駄のない取り組みを策定していくことが求められる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には宝である「地域の教育力」がまだまだ眠っている。その教育力の発掘をさらに深め、児童との交流の中で学ぶ機会を作ってほしい。 ・さらなる学校のブランドの構築に向け「かかわり」のある学校の実現に向け、ESDに関する職員研修を確実に行ってほしい。その際、これまでの実践の省察をふまえ、スクラップ&ビルドの視点にも留意し、無理・無駄のない取り組みを策定していくことが求められる。

健康・体力の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> ・「短縄検定」「竹馬検定」「一輪車検定」等の取組みを今後も重視して、更なる子どもたちの体力増進を図ってほしい。 ・体力向上アドバイザーからの指導を受け、体育の授業改善を図ると共に、休み時間には教員が積極的に児童と遊ぶようにする。 ・年度当初の個々の基礎体力と、2学期、3学期に児童自身が自身の体力の向上に気づく事ができる形がとれるとよい。コーディネーション運動の実施が難しかったようだが、わかりやすく児童に指導していき、伝えていく努力が必要だと思う。すでにいろいろな取り組みをされていると思うが、体育朝会などでバランス運動や体幹を鍛える運動などがあるとよいと思う。楽しみながら体力向上を図ることに期待したい。
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員の教科教育法、学級経営等の研鑽の重要性については言を待たないが、管理職・主幹教諭等による「メンター制度」等の「相談しやすい環境」を採り入れ、教員の抱える悩みや問題等について早期に対処できる職場環境を整えることが、信頼される学校作りの一助となるものと考えられる。 ・学習指導、生活指導における教員による取組みに差がある、との意見があった。教員による評価書にもありますが「いつでも、どこでも、だれでも」同じ方向性を持った指導の実現が今後期待されます。
(開かれた学校づくり 情報発信を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート自由記述をみると、保護者の受動的な姿勢がうかがえる。学校が情報発信を積極的に行うことで、幾つかの要望的な意見は解消が可能と考えられる。学校ウェブサイトへの更新頻度が低いので、折角のツールが役立っていないと感じられる。 ・保護者・地域・外部の方々は学校をよく見ている。学校から発信される情報に関心が高い。ホームページも含め、学校からの情報発信は価値あるものであるし、タイムリーな分かりやすい情報発信に努めてほしい。 ・一人一人に向かい合い、積極的によいところを情報発信しているが課題点についても伝えてほしい。今後も教職員全体で子供たちを見守れるよう、研修をしたり、情報交換をしたりして、チーム学校として活躍してほしい。
安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「SNSルール」や携帯電話の使用について、保護者参加型セーフティ教室での実施を今後も続けてほしい。家庭での教育だけでは限界がある。 ・廊下歩行を徹底していくことは本校の課題である。具体的な取組とともに、自他の安全を自ら守る意識をもたせていくために、道徳、学級活動等の時間も活用していく。 ・子供同士の衝突によるけがが多い傾向にある点が、平成31年度からの新校舎改築や、指導要領移行期における慌ただしさのなかで、さらに顕著にならないことを願う。 ・先生方が、早朝より、雪かきをし、坂や西門付近、歩道橋等の安全を確保してくださった。大変、感謝している。

中学校 重点項目ごとの学校関係者評価【肯定的な意見】抜粋

<p>学力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面では、85%以上の生徒が「授業が分かりやすい」と回答している。昨年に比べ3.1ポイント上昇している。より満足感が得られるような学習内容、指導方法の工夫等が必要であり、今後も研鑽してほしい。 ・「確かな学力向上」では、ユニバーサルデザインの考え方が浸透している。事例をあげれば、図書室の利用回数が伸び、生徒が自ら考え・調べる態度が反映していると想定できる。 ・「プラスワン授業」の研究報告は、大変読み応えのあるものであった。全校をあげて授業改善に取り組んでいて、また具体的成果も数値に現れており、素晴らしい取り組みであったと思う。ワークシート、グループワーク、ICTの活用を全教科にて意識的に実施されていた。カリキュラムマネジメント力の今後の向上を期待する。 ・「グローバル化社会を見据えた教育」については、放課後英会話講座などを実施し、英語の基礎能力の向上を図った。 ・学習意欲を高め、確かな学力を身につけるために学習ボランティアや学習支援ソフトを活用し、放課後や考査前の質問教室・長期休業中の補充教室、数検、英検など試験前講習等を実施し、多くの生徒がそれらに参加している。 ・教科により多少の差はあるが、「学習環境の確保」「教材の工夫」「指導方法の工夫」、いずれも高評価が得られている。短期目標の中の「家庭学習の推進」については、成果を得るまでに少々時間を要するかもしれないが、これが定着することで、生徒自身の様々な側面での成長が期待できる。
<p>豊かな人間性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導の充実では、教師と生徒、生徒同士の良好な人間関係が築けており、「自分のクラスが仲の良いクラスだと思う」と捉えている生徒は90%を超えている。昨年に引き続きスクールカウンセラーとの面接を全校生徒行なった。不安や悩みの解消、不登校やいじめなどの未然防止、早期解決に役立っていると感じる。 ・運動会や学習発表会などの学校行事を通して、目標に向かって頑張る生徒の活気が感じられ、特別支援学級との交流及び共同学習も生かされている。また生徒同士の人間関係も良好で、いじめや不登校等の問題についても教職員が連携して素早く対応している。 ・弁論大会(10月)、美術館鑑賞(2学期)、席書大会(3学期)など特長のある行事があり、生徒の可能性を引き出している。今後も継続してほしい。 ・小規模学校の長所を發揮すべく様々なイベントやオリンピック教育推進校などの施策を実施し、きめ細かい対応を行い、生徒や保護者からすれば面倒見のよい学校との高い評価を得ている。 ・『学校が楽しいと感じる』や『先生たちは、生徒の安全管理や事故防止に努めていると思う』という項目の評価も高く、10項目中7項目について、『まったくあてはまらない』が0%ということから、学校の環境がとても良いと感じ取れる。教員のアンケートにおいては、『豊かな人間性の育成』や『信頼される学校づくり』において高評価であり、学校教育に対する教員の向上心が伺えた。
<p>性・指導力の向上 教職員の専門性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロ意識と危機管理能力を高めるため、若手教諭3名に行う毎週1時間の校長研修をはじめとした各種研修会や、年2回行う「生徒による授業アンケート」の結果を冊子にまとめ、生徒・保護者に配布するとともに、その都度教師の授業改善に生かしている。 ・「ICTを活用した授業は分かりやすいか」という点について、高評価が得られており、昨年度の課題であった「パワーポイント等に関する技術(スキル)」などの問題がクリアされたことが認められるもので、効果的な「アクティブラーニング」にもつながった様子が伺える。
<p>開かれた学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が地域行事にボランティアで参加している。行事や土曜公開でも多くの見学をいただいで好意的な評価をいただいている。保護者・地域からの信頼が得られつつあると考える。関係者の数々の努力が入学希望者数に結実したといえる。 ・本年度も土曜日の授業公開は、行事を企画し保護者が参観しやすい設定にするなど工夫が見られた。 ・コミュニティ・スクールとして、安全安心かつ地域に密着した「校風」が定着してきた様子が認められる。さらに、開校以来、生徒、教員、保護者から、「学校が楽しい場」として共通に認知されている点も高く評価できる。 ・開かれた学校づくりの推進として、行事後のすみやかなWebページ更新や学年だよりなどの各種情報発信資料の充実、近隣の小学校との連携を図るために行った避難訓練後の学校見学や学校行事の手伝いなどが実を結び、平成30年度の入学希望者が受け入れ可能人数を大幅に上回る応募となったと考えられる。
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習教室や夏休み学習教室開催の取り組みは素晴らしい。卒業生を巻き込んで、講師が30名以上登録しており、連日20名の生徒が利用したとのこと。学校の新たな伝統になっている。 ・生徒による下町まつりの参加や各行事のボランティア活動により、近隣の小学校や町会、地域へのPR活動に力を入れることができた。
<p>信頼される学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「施設環境の整備」では、生徒の安全面の配慮という面から、安全点検の充実など安心・安全な学校づくりについて組織的に取り組んでいく姿が見えているように感じます。 ・施設設備や教材教具を十分に活用し、生徒の立場に立った教育活動が行われている。さらに保護者や地域、近隣の保・幼・小・中との連携や交流も盛んに行われている。服務事故もなく、とても落ち着いた学校である。 ・学校長の経営方針が明確に示されるとともに、生徒や教職員の目標、保護者や地域への対応も具体的に示されており、指導の重点についても具体的に分かりやすい。

中学校 重点項目ごとの学校関係者評価【改善に向けた意見】抜粋

<p>学力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を苦手と感じている生徒や「授業が分かりやすい」の設問で肯定的な評価が得られなかった10%前後の生徒に対しての底上げの対応を行っていくこと。年度当初からの学習支援員の導入と補充。教材の工夫、指導方法のさらなる工夫改善、ICTの活用が必要である。 ・「授業がわかりやすいと感じている」という項目では、保護者の回答が72%と少し低めである。わからないと回答している方が14.3%もいるのが原因である。保護者の理解をどのように得られるかが今後の課題である。 ・人的支援を受けながら放課後の計画的な補習などを引き続き実施し、一人一人に応じたきめ細かい指導と学力向上に期待する。 ・ステップアップ学習教室・検定学習の継続していただきたい。また、ステップアップ学習では基礎学力の向上をお願いしたい。読書のための本の充実、プロジェクターや電子黒板を利用した質の高い授業の継続をお願いしたい。
<p>豊かな人間性の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな人間性の育成」では、より一層規範意識の徹底、集団生活のルールへの順守の継続的実行が「豊かな人間性の育成」を体得するために必要なことである。 ・外国人との交流会などを積極的に企画し、生徒が自然にグローバルな視野を体得できる環境づくりが重要である。 ・教職員間での情報共有に努めている姿は引き続き強く感じている。しかし、「学校生活で起きた問題への対応」に関するアンケート結果には、生徒・保護者・教職員での感じ方の違いが表れている。対応を受ける側（生徒・保護者）には伝わらない部分があることを再認識し、より一層の改善が必要である。発信する情報量やコミュニケーションの深さを意識していくことが必要ではないか。
<p>教職員の専門性・指導力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブラーニング」の普及が問われており、現場では対応力が問われています。その本質は「生徒に考えさせる＝教師が教えない」授業と思われる。教師の働き方が問われるなか、教師に時間を与え「ゆとり」を持ってもらうことで教育力の向上を図ることも一案と考える。
<p>開かれた学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携事業や部活動の活躍、生徒会を中心としたボランティア活動など、保護者や地域に向けた活動が多くあるが、広報誌やホームページなどでの広報活動が足りないと感じる。学校だよりや広報誌、ホームページなどでの頻繁な広報活動を行っていく。 ・今年度から「コミュニティ・スクール」（地域運営学校）としての取り組みが本格的にスタートしたが、生徒や保護者への理解と共に、地域に開かれた学校のPRに努めて欲しい。 ・学校運営協議会は積極的な活動を行っているが、認知度（アンケートのなかの「設置を知っているか」という点）については、未だ3割近くが設置自体を知らないという結果であった。こうした結果がどのような理由によるものか分析を行い、認知向上に向けての改善策を検討しそれを具体的に実施していく必要がある。
<p>信頼される学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「入学してよかった」「部活動や作文や作品等の活躍が素晴らしい」「環境が良い」等をよく聞く。今後、学校便りや学年便り、HP、Twitter等を有効に利用し、学校としての良さ・生徒の活躍をわかりやすく地域にPRしていく必要がある。地元の地域からの入学者が多い。さらに地域から認められる学校を継続してもらいたい。 ・小規模校の特徴を生かしてきめ細かい教育環境・内容を提供している。この特長を関係する小学校に呼び掛けて、生徒増が期待できるPR活動の実践が継続的に必要であると考えられる。
<p>家庭・地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段のちょっとした会話から子育ての悩みが解決しヒントを得たりすることから、同じ悩みを抱えている保護者同士のコミュニケーションは重要なことであるとの認識は教師、保護者ともにもっているため、学校内で保護者が気軽に雑談できる会議室のような空間としてPTA会議室を活用したい。 ・学校支援地域本部が関わる学校行事や教育活動へのボランティア参加者の募集について、保護者や地域の理解と協力を仰ぎ、新たな支援事業への取り組みに努力する。 ・保護者のアンケートにおいて、『学校の教育活動に満足している』、『子どもの人権に配慮している』、『学校は特色ある学校づくりへの取り組みをしている』の質問に対し、『まったくあてはまらない』という回答があるので、学校全体で取り組み今後の改善につなげてほしい。保護者のアンケートにおいて、『わからない』と答えている項目があるので、連絡の方法や周知、理解のための発信に努めるべきである。